

「2010 チャリサーチ in 北海道」活動報告

(2010年8月17・18・19・20日、4日間の活動)

札幌～稚内間(約366km)

河川水質調査及び日本海沿岸の漂着ゴミの現状調査と、
豊富町海岸清掃を兼ねた自転車によるエコツーリングの実施。

NPO 法人・地球友の会 北海道委員会



1、河川の水質調査に関する分析データ(別紙参照)

注) 水質の検査データに関して、前週の雨の影響が濃く、全般的に濁りが強かったため、平常時の状況とは異なる可能性もある。

2.活動報告

[2010/08/17]

① 当別ダムの視察(台形CSG形式ダム、2012年完成予定)

【建設を巡る論争】

当別川及び石狩川下流部の洪水調節、当別川流域農地への慣行水利権分の用水補給・当別川の流量一定化による生態系保護を図る不特定利水、札幌市・小樽市・石狩市への上水道供給を目的として2012年完成予定であるが、計画当時から反対運動が強く補償交渉が長期化した。特に水没農地面積が350ヘクタールに及ぶことから1997年(平成9年)に水源地域対策特別措置法の公共事業再検討の風潮が高まり当別ダムも事業の再検討を迫られた。

「法9条指定ダム」に認定され補償のための国庫補助額が増額された。

この結果現在は交渉も妥結し住民は全て退去したが、この中で建設費縮減を図るためにダムの規模縮小が図られ、その一環として台形CSGダムへの形式変更となったのである。

ダムに反対する市民団体は建設差し止めの署名活動を行ったが、建設費を分担する下流受益地の札幌市がダムの必要性を訴え、小樽市も水道供給量を減らしたもののダムは必要であるとの認識を示した。

2005年(平成17年)、北海道の諮問機関である「北海道公共事業評価委員会」は当別ダムについて長い間行われた建設可否の議論をまとめ、堤高3メートル抑制と台形CSGダムへの型式変更といった規模縮小・建設費節減の努力を評価してダム建設は妥当であるとの結論を出した。

これを受け北海道は凍結状態であったダム建設を継続させると表明し、2012年の完成に向けて建設を現在進めている。
(ウィキペディアより抜粋)

【所見・感想】

生態系では、イバラトミヨ、エゾホトケ、などの魚類や、エゾサンショウウオなどの両生類が生息、他にも多くの貴重種の生息地である。

流域面積231、1km²、堤高52,7m.の巨大ダムであり、世界に例のない独自の形式での建設で、生態系への影響も少なからずあると思われ懸念される。

洪水調節・不特定利水・下流都市に有益な活用を望む。

(地球友の会 北海道委員会・門間 祐児)

ダム湖底となる道を走ったが、そこで見た全ての森林や川が沈むと言う現実に驚いた。ただ本当に必要であるなら、造ったと言うだけでなく、その後どのように有効活用されたかも、私たちに伝えてほしい。
(サイクリングフロンティア代表、石塚 裕也)



[当別ダム・工事現場]



[当別ダム・完成時は水没してしまう地区]

[2010/08/18]

② 上平グリーンヒルウインドファームの視察

【所見・感想】

上平グリーンヒルウインドファームは苫前の町から南に6 kmほど下った丘の上の広大な牧場の中に全高70 mもの風力発電機が39基も乱立した日本最大規模の集合型大規模風力発電所で、日本海からの浜風を受けて約5万kWの電力が発電されている。

すぐ側に近づくると、直径55 mの羽根が回っており、まるで自分が小人にでもなったような錯覚をおぼえる。

(地球友の会 北海道委員会・門間 祐児)



[上平グリーンヒルウインドファーム]

[2010/08/19]

③ 初山別天文台

日本海オロロンライン「しょさんべつ天文台」は、美しい自然に囲まれた「みさき台公園」に建設された施設で、65cm 反射式天体望遠鏡が設置されています。

この天文台は、一人でも多くの人々に気軽に星空を楽しんでもらいたいという願いでつくられたものなので、あまり厳しい制限を設けておりません。

宇宙時代の夢と村づくりの夢を結びつける施設としてご利用いただきたいと考えております。

(入館料 高校生以上 200円 小・中学生 100円 幼児 無料)

(初山別天文台ホームページより抜粋)

【所見・感想】

残念なことに、訪れた日は入館できず。外観とロケーションのみの視察であったが、見晴らしの良い高台からの眺めは、夜であればどんなに幻想的な星空の観測ができるか、想像するだけで夢が膨らむ思いだった。

(地球友の会 北海道委員会・門間 祐児)



[初山別天文台]

④ 北海道海鳥センター(羽幌町)

北海道海鳥センター(Hokkaido Seabird Center)は、環境省が希少野生動植物の保護を目的として設置する野生生物保護センターの1つであり、北海道苫前郡羽幌町に位置する。主にウミガラスやエトピリカ等の海鳥に関する保護増殖活動や調査・研究、普及啓発活動を行っている。

(日本に初めてできた海鳥に関する博物館的な施設である。)

羽幌町に属する天売島は、ウミガラス(オロロン鳥)を含む8種の海鳥の生息地として有名である。

近年生態系が変化し、オロロン鳥などの貴重な海鳥が絶滅の危機にある。海鳥センターでは、海

鳥の生態を学術的に分析・研究することにより、保全活動を行なっている。センター内では、海鳥に関する様々なジオラマ・模型・研究調査などの展示物が見学でき、海鳥に関する情報を検索することができる。
(ウィキペディアより抜粋)

【所見・感想】

このセンターでは、海鳥の繁殖期にあたる4月から7月の期間天売島に職員を派遣し、絶滅危惧種を中心とした海鳥の観測などを行っており、今年ウミガラスの繁殖、数羽の確認との説明をうけた。海水温の上昇による餌になる生物の変化が、地上の生態系に多くの影響を及ぼしているのではないかと専門家の意見にあらためて地球の温暖化に対し危機感をおぼえた。

(地球友の会 北海道委員会・門間 祐児)



[北海道海鳥センター]



[2010/08/20]

⑤ 抜海海岸にて漂流物調査・ゴミ拾い実施、(豊富町)

豊富町役場の協力を得て、漂着ゴミの収集に、トラックを出していただいた。

ハンゲル文字の漂着ゴミが目につき、地域や日本だけの問題ではない事に、あらためて気がつく



注: 上写真の海外製容器には、中に液体が入っており、口がしまった状態、
子供も訪れる海岸だけに寒気がした。

他にも、アナゴ漁につかう仕掛けや、ビン、ペットボトルが数多く散乱していた。



【所見・感想】

海岸周辺の環境は、普段車で何気なく通りすぎると、目に見える所は比較的ゴミも少なく、マナーが良く思える。しかし、今回チャリサーチという企画で自転車で走って気がついたが、実はトンネルの脇や海岸線の道路の下など普段目に入らない場所に、かなりのゴミが投棄されており、残念な思いが大きい。

道内観光としては、まだあまり旅行者が多くないオロロンライン、大型の観光施設やホテルがないかわりに、自然を間近に感じるオートキャンプ場や、バンガロー施設が魅力だ。

それだけに今後、海や山の景観や自然を大切にしていかななくてはならない。国や自治体、さらに我々、民間の団体が協力し合い、訪れた旅行者の方達にも、すばらしい思い出と、またいつか「北海道に来たい！」と、そう思ってもらえるよう努力していく事が大切だと思う。



「あなたの第二の故郷は何処ですか？」・・・この質問に

「北海道！」

そう答えてもらえる事が、私たち道民の誇りになるように、我々、「地球友の会 北海道委員会」は、自然環境の保護につながる運動を続けていきたい。

(地球友の会北海道委員会 門間 祐児)

【参加協力者】 自転車

- ・門間祐児:(有)エムズ チーフデザイナー (NPO法人地球友の会 副理事)
- ・飛渡信吾:札幌山の手高校 3年生 (NPO法人地球友の会 学生会員)
- ・石塚裕也:サイクリングフロンティア 代表 (サイクリングツアーガイド)

【サポート協力者】サポートカー

- ・大泉 太:タイセイ(株) 常務取締役 (NPO法人地球友の会 理事長)
- ・斎藤雅司:エム・サポート 事業部部長 (NPO法人地球友の会 理事)
- ・小林克倫:小林克倫事務士 土地家屋調査士 (NPO法人地球友の会 理事)
- ・杉岡清俊:(有)アブロス 代表取締役 (NPO法人地球友の会 理事)

NPO 法人・地球友の会 北海道委員会

理事長 大泉 太

事務局住所:札幌市白石区菊水八条 2-1-35(珈琲淹 リファインド内)

TEL & FAX:011-825-9461

メールアドレス:info@aoe-hokkaido.org

ホームページ:<http://www.aoe-hokkaido.org/index.html>